

11月の果実の見通し

平成29年10月23日現在

品目	区分	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年入荷量(t)	前年占有率(%)	
りんご類		7,567	101%	8,013	327	90%	280	1,937	25.6%	本年産のりんご類はやや出遅れもあったが、10月入ってから気温が冷え込んだこともあり、遅れはほぼ解消されて順調な入荷となった。夏場の干ばつなどもあって小玉傾向となった産地も多く、入荷量としては当初計画を下回るものも多かったが、特に不足感も無く中生種全般に前年比安で推移した。10月末からは「サンふじ」の入荷が始まってくるが、中生種が計画通りに切りあがることでスムーズなバトンリレーが出来そうである。今後11月にかけても数量的な不足はなく、小玉果も多いために堅調だった前年の価格は下回る見込み。
かき類		7,345	118%	7,549	270	81%	231	577	7.9%	10月は長雨と低温で販売苦戦が続いていたが、11月に入れば品種・産地の入れ替わりもあって販売展開は変わってくる見込み。『たねなし柿』は新潟中心に奈良・和歌山の入荷で品種は「平核無」に。甘柿では岐阜・福岡産の「富有柿」、愛知・静岡産の「次郎柿」を中心に入荷。各品種ともに肥大は前年より若干小さくなるが、出荷量は前年を上回る。
西洋なし		1,193	91%	1,117	343	90%	348	1,126	94.4%	西洋なしの生育は各産地とも良く、着果状況も良かったが、山形県産「ラ・フランス」は小玉傾向のために前年より少なくなりそう。出荷開始も前年より4・5日遅く、10月中旬からのスタート。新潟県産「ルレクチエ」はここ数年出荷数量が落ち込んでいたが、肥大も良く生育が順調なことから出荷数量は前年を上回りそうであり、11月中旬から12月上旬は西洋なしの取扱いが増えると思われる。他品目の苦戦もあって価格は前年比安を見込む。
いちご類		485	122%	643	2,062	94%	1,738	-	-	各産地ともに定植時期は前年と同様であるが、台風18号の影響で定植のピーク時期が若干ずれ込んだ。しかし定植後、9月・10月の低温で生育の展開が早く、出荷も前年に比べ若干早い。10月の長雨によって一部に生育遅れが出ているが、11月は順次出荷産地も増え入荷量も増えてくる。12月上旬が若干少ないかもしれないが、初期生育不良の影響などで大幅に出荷量が落ち込んだ前年よりは多い見込み。
ほしがき		125	103%	98	1,714	97%	1,704	0	0.0%	前年は秋口に気温高と降雨があったことで乾きが悪く、年内の出荷量は少なく推移したが、今年は原料となる柿の生育・着果量からしても出荷量は多くあると思われる。また、気温も前年とは違って低めで推移していることや、10月の柿の販売状況からして多く干し柿に回る可能性があるため、前年より入荷増・価格は若干安めを見込む。